

「第 2 期長野県食と農業農村振興計画」
の推進に関する地区部会からの
意見・提言

地区部会からの主な意見・提言 《抜粋（要約）》

1 夢に挑戦する農業

(1) 夢ある農業を実践する経営体の育成

- 新規就農者を誘致するため、都市住民等へのPRや支援策に関する情報発信の強化が必要。また、就農後の適性を判断するための一時的な体験機会があるとよい。(下伊那、木曾、松本)
- 新規就農者に対しては、希望に応じた栽培技術や生産物の販売方法を含めた研修・サポートなど、引き続き、経営が安定するまでの手厚い支援が必要。(佐久、上伊那、松本、北安曇、長野)
- 就農者や離農者の実態把握を行うことも、今後の施策検討にとって必要。(下伊那)
- 新規就農者等に対し、条件の良い農地や作業所の確保、中古農機具の斡旋・補助等の支援が必要。また、農家子弟に対しても、親の農業機械の更新などの支援が必要。(上小、松本、長野)
- 農業者の高齢化が進んでいるため、後継者がいない農家からの経営継承の仕組み構築など、農業構造の転換に向けた様々な施策が必要。(上小、上伊那、下伊那、松本、北安曇、長野)
- 果樹は、水田に比べ農地集積が難しいため、経営継承の仕組みづくりが必要。(北信)
- 農地を適切に管理するためには、組織経営体の育成を進める必要がある。また、集落営農組織の経営安定を図るため、経営や事務に対する支援や体制整備が必要。(上小、上伊那、木曾)
- 若者が望む新たな農業スタイル(ライフスタイル)でのバックアップが必要。(松本、北安曇)

(2) 自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産

- 県オリジナル新品種は評価が高いため、販売面での取組とともに生産振興をお願いしたい。米「風さやか」はしっかりとしたブランド確立が必要。(下伊那、長野)
- 平成30年度からの米政策の転換を見据え、県として施策の方向性を見出す必要がある。(北信)
- 地域特産作物の生産を、販売面の戦略と併せて推進する必要がある。(佐久)
- 地球温暖化や高温に対する生産技術、品種開発を進めてほしい。(諏訪、上伊那、松本)
- 畜産業は、生産費の高止まりや環境対策の要求など厳しい状況にあるため、素牛や施設整備への支援を拡充するとともに、将来的な畜産全体を姿を考えてほしい。(下伊那)
- 子育て世代を中心とした消費者の「食」に対する関心の高まりから、エコファーマーやGAPの取組が販売の付加価値となり、農家の収入増加にもつながるため、一層の推進が必要。(諏訪、長野)
- 「信州の環境にやさしい農産物認証制度」や「原産地呼称管理制度」認定米の知名度が低いいため、申請者がメリットを感じられるような制度設計にしてほしい。(北信)
- 老朽化した用排水路や畑地かんがい施設の維持管理・更新を効率的に進める必要がある。また、水田の汎用化による有効活用を図る必要がある。(佐久、諏訪、下伊那)

(3) 信州ブランドの確立とマーケットの創出

- 地域特産作物については、著名な料理研究家などによる料理提案と併せたPRが必要。(佐久)
- 消費者のニーズに合わせ、少量販売やセット販売など売り方の工夫が必要。(上小、諏訪)
- 東京オリンピック・パラリンピックでの食材提供・PRに向けた取組を始めてほしい。(佐久)
- 輸出については、国・県レベルでの取組とルート開拓をお願いしたい。花きや日本酒なども含め輸出の取組が出てきている。(松本、北安曇)
- 6次産業化は、生産者が加工、販売を行うだけではなく、生産者と企業等が連携した取組も進めていく必要がある。(佐久)
- 6次産業化産品を県外や海外に売り込むなど、販路拡大と併せて推進してほしい。(上小)

2 皆が暮らしたい農村

(1) 農村コミュニティの維持・構築

- 高齢化した中山間地域の集落等においては、農業者以外の人たちの参加促進などにより、地域の農業や農村コミュニティを維持していくための施策を展開することが必要。(佐久、諏訪、下伊那)
- 農地を守っていくためには、「農ある暮らし」を希望する方を地域で受け入れるための新たな仕組みをつくる必要がある。(下伊那)
- 都市住民に田舎の良さが伝わるような情報発信と、農業体験ツアーの企画があればよい。(下伊那)
- 新規参入した方に対し、水田の畦草刈りなどの最低限の活動や地域住民との交流の大切さなど、田舎で暮らすための基本的な知識を教えることが必要。(上小)
- 女性農業者のネットワークとして、若手、ベテラン、加工グループなど農業に関わる女性の交流の場をつくってほしい。(下伊那)
- 収穫体験や農家民泊などの観光は需要があるため、広域での取組が必要。県の計画では、観光農業の具体的な施策が少ないため、検討してほしい。(下伊那、北安曇)

(2) 地産地消と食に対する理解・活動の促進

- 農産物直売所では、地域産品の充実や来場者の確保など、安定した経営を行うための方策の検討が必要。(佐久、上小)
- 地元スーパーに県内産や地元産の農産物を置くよう誘導できないか。(上小)
- 朝市や直売所では、商品の見せ方や食べ方の提案、食べられる場の創出など工夫が必要。(諏訪)
- スーパーの直売コーナーなどでは、消費者にとってのメリットを明確にする必要がある。(下伊那)
- 地域産農産物のホテル・旅館などへの利用促進に当たっては、現実的には、取扱量が少なく流通体制を組むのが難しいため、新たなシステム構築が必要。(佐久、北安曇)
- 旅館等における地域産農産物の活用にあたっては、農産物の情報を共有することが必要。(北信)
- 消費者の嗜好が多様化しているため、地産地消を進める上では、多品目生産が必要。(上伊那)
- 自ら野菜を栽培して学校給食に提供する女性組織などの、企業的な体制整備ができないか。(上小)
- 学校給食への活用にあたっては、規格外の野菜などに対する調理員の意識改革が必要。(下伊那)
- 観光農園等を活用した、「食」と「農」に対する教育・PRが必要。(下伊那)

(3) 美しい農村の維持・活用

- 太陽光発電施設が増えており、農村景観等に影響をきたしている。農地利用の調整など検討が必要。(諏訪、上伊那、下伊那、北安曇)
- 農地流動化や非農用地化、米政策の転換等を踏まえ、改めて土地利用の議論が必要。(上伊那)
- 山間地域の条件不利地では、定年帰農者が会社で得たスキルを生かして、花や軽量野菜の栽培に組織的に取り組んではどうか。(上小)
- 中山間地域対策としては、小規模整備などきめ細やかな対策が必要。(松本)
- 観光地として、農業生産を維持することによる景観保全の取組も重要。(北安曇)
- 鳥獣被害対策や遊休農地対策などにおいては、個人ではなく地域ぐるみの取組が重要。(下伊那)
- 多面的機能支払が将来にわたって機能していくためには、耕作できなくなった農地を荒らさないようにするという観点で、制度・仕組みを検討することが必要。(下伊那)
- 鳥獣被害を防止するためには、行政が主体となった広域での取組が必要。(佐久、下伊那、北安曇)
- 電気柵等への活用など、地形を活かした自然エネルギーの活用推進が必要。(木曾)

佐久地区部会

施策の展開方向	意見・提言
夢ある農業を実践する 経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農者の販売形態として個別配送や農産物直売所での販売などがあるが、個別配送は輸送経費が割高、農産物直売所は確実に売れるかといった課題がある。就農前の研修では経営に合わせて、売れるものはなにかといったことや、売るための技術や販売方法まで含めた研修が必要である。
自信と誇りを持てる 信州農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○ ズッキーニが価格低迷している中で、冬至向けカボチャが栽培されている。7月定植ということであり、他作物との複合体系も検討しながら、カボチャを佐久地域の特産物として推進できないか。 カボチャの振興に当たっては、栽培技術的な面はもちろん、信州産・佐久産といった独自性を出した販売戦略を確立していくことも大切。 ○ 佐久地域のブルーベリーは食味よく評価も高い。冷凍することで長期保存が可能であり、プルーン同様に生産振興を進めて欲しい。 ○ 水田地帯では過去に整備された用水路は老朽化し、排水路の中には土に埋まっているところもある。用水路の整備は少しずつ進んでいるようだが、排水路の整備についても一体的にお願いしたい。
信州ブランドの確立と マーケットの創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でチラシを作成し、ポスティングを行い販路を拡大している新規就農者がいて感心する。我々農業者もこうした取組をしなくてはいけないかなと考えている。 ○ ズッキーニは食べ方が知られていないので、食べ方の提案等PRが必要ではないか。 ○ プルーン、ブルーベリーを使った料理の提案を横山タカ子先生のような知名度の高い方にPRしていただきたい。 ○ 東京オリンピックに向けた食材提供・PRができるような取組を始めて欲しい。 また、オリンピックに伴い有機JAS・グローバルGAPが注目され、にわか有機JAS農家・にわかグローバルGAP農家が増えると思うが、オリンピック後も継続的に取り組めるよう支援をお願いします。 ○ 6次産業化は農業者が加工まで取り組むのではなく、加工は別の組織に委託する手法も取り入れるべき。 ○ 食品衛生法の許可基準が厳しく、6次産業化になかなか踏み出せない。 ○ 6次産業化はリスクを伴うので、生産者は製造販売を企業等と連携して取組を進めていくよう指導して欲しい。

施策の展開方向	意見・提言
農村コミュニティの維持・構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高齢化等から中山間地域農業直接支払事業の取組をやめた集落もある。一般の人たちの参加も促して、中山間地のコミュニティが維持できるよう対策をお願いします。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農産物直売所に県外品や輸入品も見受けられ、地域農業の振興になっているのか疑問である。もっと新規就農者の品物を並べていただくとよい。 ○ 地消地産で、例えば軽井沢のホテル・旅館などへの販路拡大ということだが、現実的には、個別の取扱量は少なく、流通体制を組むのも難しい。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鳥獣被害対策の補助金が減額されているため、予算確保をお願いしたい。

上小地区部会

施策の展開方向	意見・提言
<p>夢ある農業を实践する 経営体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 後継者がいない農家は、誰かに農業継承したいと考えているが、その誰かとマッチングする機会がない。よほど大規模経営でないと研修生を入れられない。小規模経営では研修生に自分の農業を継がせられない。よいマッチング法を検討してほしい。 ○ 最近の若い研修生は手間がかかることをやらない。畦草刈りなどやりたくないそうだ。そういうこともきちんと教えるようにしてほしい。 ○ 農地中間管理事業を活用するようと言うが、米だけ作って畦草刈りもやらない農業者へは貸したくない。人のものを預かって管理する側の最低限のモラルは守れるよう指導が必要。 ○ 定年帰農者や新規就農者を支援するために、中古農機具の斡旋・補助等が必要。また、農業機械の更新への補助も必要。JA農機具センターと連携してはどうか。 ○ 農家子弟をもっと大事にしてほしい。親の古い農業機械の更新や農地の借入がしやすいようにしてほしい。 ○ 組織経営体の育成を進める必要がある。組織なら財務に長けた人、販売が得意な人、農作業にのめり込みたい人などがいて、うまく役割分担できる。また一人が亡くなっても、残った人が農地を管理すれば荒廃しなくて済む。 ○ ますます二極化が進む。産業としての農業は組織的にやっていくことが重要。農ある暮らしの農業は直売所を主体として守っていくのがよい。
<p>信州ブランドの確立と マーケットの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農畜産物でも良品は高価格で売れるが、そうでない品を高く売るには6次産業化が必要。制度や支援の充実を。 ○ 農産物直売所や農産物加工所等の小さな団体でも取り組めて成果が出せるよう、地域発元気づくり支援金の補助率を10/10近くに上げてはどうか。 ○ 6次産業化をもっと推進して行ってほしい。県外へ売ることをもっと進める。(輸出含めて) ○ 新しい会員の募集や、新商品の考案をしなかったことなどにより、農産物加工グループが解散した事例がある。常に新しい手を考えるようにする。 ○ 消費者側が小人数になってきたので、直売所等の売る側も量を減らしているのでは。(1袋5本入り100円を3本入り100円でよい) 新鮮で安全安心というのが一番。

施策の展開方向	意見・提言
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 差別化のため、新ブランド確立、輸出への取組、グローバルGAP、地理的表示制度の活用を進める。 ○ 市町村や個人でのブランドだけでなく、上小地域の風土を生かした広域ブランドを考えてはどうか。
農村コミュニティの維持・構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規参入者の中には畦草刈り等やらない人がいる。畦畔管理、地域住民との交流の大切さをもっと教えてほしい。 ○ 直売所は地方創生のトップランナー。皆で話しあい、楽しみながら頑張れるので80歳代でも元気である。サラリーマンの息子が出荷を手伝い、そのうちに主体農業者になったケースもある。こういう事例をうまく生かせないか。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大きい直売所は外から品物を持ってきて常に品数豊富で来場者多いが、小さい直売所は来場者少なく今後を不安視している。地域にある地元産農産物100%の本当の意味での直売所を守る施策を。 ○ 若い女性の会が自分達で野菜を栽培して学校給食に提供している。こういう組織をもっと企業化できないか。全県で同様なことがあるはず。 ○ 地元スーパーで県内産野菜を置いていない店もある。この時期は県内産野菜を、できれば地元（上小地域）の野菜を置くように誘導できないか。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 山間地では条件の良い農地は貸借済みで、山際の条件不利地が残る。これをどうすればよいか。定年帰農者が花や軽量野菜をやるのがよい。組織化すればやりやすくなる。定年帰農者が会社で得たスキルを地域や組織で生かせればよりよい。

諏訪地区部会

施策の展開方向	意見・提言
<p>夢ある農業を実践する 経営体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農業委員会の組織変更による農地最適化推進委員が主体となって農地の流動化を進める必要がある。 ○ トマト栽培を主体に行っている。農家の高齢化が進んでいて周囲から農地を使ってほしいと言われ、トウモロコシなどの栽培を行っている。30aのブルーベリー畑も借りることになった。労働力雇用しているが、冬場のことを考えると正規採用は難しい。加工も考えないといけない。 ○ 若い人に農業の楽しさを伝えたい。
<p>自信と誇りを持てる 信州農畜産物の生産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ほ場整備した水田が荒れてきている。事業を活用して汎用化を進め、活用したい。 ○ 耕作放棄地が増加傾向。TPPによりさらに増えることが心配される。 ○ 温暖化により高温対策に余計な経費がかかる。苗も高く身入りが少ない。 ○ 高温障害で花の品質が悪く安くなってしまう。 ○ セルリーやブロッコリーでは後継者が入っている。花も施設化を図り後継者を入れたい。 ○ 諏訪湖はヒシやヨシが多く汚い。きれいになれば上流で作られている野菜の印象も良くなる。琵琶湖は水がきれいで、マリンスポーツやサイクリングも盛んだった。県民意識も高く、見習うべき。 ○ エコファーマーやGAPの取組を進めている。消費者の食に対する関心が高まっている。食品偽装問題をきっかけに子育て世代での関心が高い。 ○ 直売所にエコファーマーコーナーを設置したところ、客の反応は高い。いいものにはお金を出してくれる。農家の収入も増える。農業が楽しいと思えば後継者も育つ。 ○ 諏訪湖の汚れが目立つ。上流域での肥料の削減、エコファーマーの取組、認証取得を進めている。諏訪湖の浄化に協力したい。
<p>信州ブランドの確立と マーケットの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 信州プレミアム牛肉などの「おいしい信州ふード（風土）」の取り扱いは今後も積極的に取り組みたい ○ 農産物をいかに売ることが課題。セルリーの輸出、花のセット販売などが出来ないか。 ○ 地域ごとに拠点があれば、6次産業化も進むのでは。

施策の展開方向	意見・提言
農村コミュニティの維持・構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域のコミュニティ、担い手不足、高齢化など地域を守るために真剣に考えていく必要がある。 ○ バイパスの計画があるが、開通によって地域が暗くならないようにこれを活用していくことが必要。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 諏訪で朝市をやっているが、奥のほうでやっていてわかりにくい。小淵沢の朝市はいろんなものが売られており、見せ方も上手。せつかくの朝市なので、そこで食べられるなど工夫が必要。 ○ 直売所の店頭で、農産物の販売に併せて食べ方の提案が必要と思う。おいしいものを高校生に食べさせ、より良い食生活ができるよう体験させる取り組みが必要。漬物のワークショップを計画している。 ○ 地産地消を表に出し、地域のもを食べる活動が必要。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農地に太陽光発電施設が増加している。農地転用の申請があれば不許可にできない。森林化した山畑を伐採してパネル設置している例もある。悩ましい問題。

上伊那地区部会

施策の展開方向	意見・提言
夢ある農業を実践する経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農者は、自分の夢に向かい思い描いている農業と実際の収入に開きがあり、農業をやめてしまう人もいる。安心して農業が続けられる施策をお願いしたい。 ○ 生産者の年齢は 65～70 歳が主力だが、5～10 年経過すると 80 代になってしまう。集落営農にも限りがあるため農地の維持・管理について将来的にどう考えているか。 ○ 新規就農者や農業後継者が経営を軌道に乗せるまでの支援体制を充実してほしい。（経営改善計画や青年等就農計画が計画どおりに実現されるように支援） ○ 集落営農型の法人について、設立までの支援・補助はあるが、設立後の支援（経営指導など）についてもお願いしたい。
自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○ 先日、長野県が開発した品種（りんご、ぶどう、なし、すもも、レタス）の説明を受けた。地球温暖化に対応する品種として、ねらいは良いと思う。
信州ブランドの確立とマーケットの創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長野県内には、若い農業者が手掛けたブランドの数が少ないように思われる。逆に高齢者はブランドに対して関心が無いと感じる。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 少子化が進んでおり、また、消費者の嗜好も多岐に亘ってきている。野菜・ハーブ類など多品目で勝負していくことが地産地消、地消地産を進める上で必要ではないか。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的機能支払は良い制度だと判断しているが、農業者にとってみると申請書類が難しすぎる。簡素化できないか。 ○ 農業は生産基盤と農産物生産が 50:50 と思うが、構造改善事業などが終了すると、生産部分に重点が置かれるようになった。今は、農地の流動化や非農地化、米政策の転換で改めて土地利用計画を立てなければならない時代になってきた。大きな議論として考えてもらいたい。 ○ 優良農地が太陽光発電の用地となっている。これが景観を損ねて農村風景の消滅につながっている。農地の集積が進まないところほどこの傾向が強い。ため、農地をどのようにしていくのかコーディネートする人が必要。 ○ 農地の集約化、農業経営の大型化で道路敷地の境界の管理が悪くなってきている。今後大きな問題に発展しそうで心配。

下伊那地区部会

施策の展開方向	意見・提言
<p>夢ある農業を实践する 経営体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農した後、どれだけの人が継続して農業をしっかりとやっているのかといった実態の把握も必要である。新規就農者を増やすことは第一段階であるが、その後のサポートをしつつ、5年間その方が農業を継続しているのか、離農していればどうして離農したのかなどデータを集めることが、新規就農者が農業を続けてもらう方策を検討していく上で役立つと思う。 ○ スキルアップセミナーや新規就農の支援等については、その後の離農率だとか就農率に目を向けて、バックアップなどにも力を入れていただきたい。 ○ 高齢となった農家の経営を引き継ぐための、後継者確保に向けた様々な方策をお願いしたい。 ○ 農業をしたいと都会から来た青年が、自分の体力を十分に認識しないで田舎暮らしを始めたために、農作業に苦慮したケースもある。そういうのを見ると就農をしたいという人に、自分はどのような農業がいいのかという事を体験させる機会があればいいなと感じている。 ○ 長野県は移住先の人気度ランキングで日本一ということだが、人口減少の時代を迎えている中、全国の自治体が、どうやったら人口を増やせるのかという人を取り合う競争の時代になっていく。そういう意味で、「日本一就農しやすい長野県」の取組は非常にありがたいと思っており、農家の担い手の確保は今後も重点的にお願いしたい。
<p>自信と誇りを持てる 信州農畜産物の生産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「りんご長果 25 (シナノリップ)」は、非常に食味がよく、つがるの後継品種として高い評価があった。「レタス長野 50」も、8月に非常によくできる良い品種で、根腐れ病にも強いということで、これの検討もしっかりお願いしたい。 ○ また、新しい品種等で市場の活性化を狙っていきたいと思うが、流通大手は、同一商品・同一販売が主流で、県下統一で同じ産地のものを売らなければならないと聞くと、地元産はなかなか受け入れていただけないと聞く。これからは地域性の高い商品に販売を特化するという話も一部では出ており、新しい品種をどんどん販売できればと思うし、隙間を埋めるという意味で、ニッチビジネスにも特化していける品種ではないかと思うので、それらも含め販売面での取組もお願いしたい。 ○ 米のブランドは、昔は「秋晴」であったり、「コシヒカリ」はどうかとか、今は「風さやか」とか、いろいろなブランドが入り代わり立ち代わり出てくる。それぞれ特徴があって、県が推奨して作っていると思うが、消費者からするとそこまで変わらないなという話が出てくる。なぜそんなにコロコロ変わっていくのかという疑問もある。

施策の展開方向	意見・提言
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国・大学や企業等との連携については、地元にも信大の農学部があるので、そういうところとの研究の成果や発表など、一般消費者にも分かるようにしていただけるとありがたい。 ○ この地域の肉牛や豚肉は非常に高品質であり、何とかこれを維持したいと思っている。飼育環境が非常に厳しくなり、臭気問題などで飼いたいのが飼えない、品質は良くなっているけど飼育できない環境が広がる中で、物が無くなってしまふことも懸念される。飼育環境を改善できるための研究を進めてほしい。 ○ 畜産業は、素牛の価格高騰や、飼料価格の高止まりとともに、居住地の広がりによる混在化の中で施設の改善を求められる時代となり厳しい状況にある。素牛の導入や施設整備の支援を拡充してもらいたい。また、大きくは畜産業をどうしてくのか、生産・と畜・加工・流通へと持っていく流れをどう考えているのか、県として考えてもらいたい。 ○ 地域の畑地かんがい施設の最大の問題点は老朽化であり、いかに維持管理していくかが大きな課題である。さらに、年々、農地の荒廃化が進み、あるいは世代交代によって、自分の農地もわからない者も出ている中、面積に応じた賦課金・負担金等の徴収が、徐々に厳しくなっており、国への要望活動も行っているが、県でもよろしくお願ひしたい。
<p>信州ブランドの確立と マーケットの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域ブランドとして市田柿があるが、米は「キヌヒカリ」から「風さやか」に変わっていく。品目がコロコロと変わるのは、悲しいので、もう少しブランドをしっかりと確立し、農業者が頑張ってやっていけるようなものを作ってほしい。 ○ 昔ながらの小さい頃食べておいしかった野菜も、今は改良され、全て同じような味がするね、という話も出ている。昔ながらのおいしかった味はそれぞれに思い出や記憶があるので、そういうものを再び食べてみたいという思いがある。 ○ 市田柿は日本全国にまぎれもないブランドとして定着しているが、農家の高齢化で出荷量を確保するのが非常に厳しい状況が続くと思っている。そのため、意欲ある農家への支援制度を拡充してもらふことはできないか。ブランドを維持しそれを重点的に進める施策を展開してほしい。

施策の展開方向	意見・提言
<p>農村コミュニティの維持・構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内の若い農業女性のネットワーク化があるが、若い農業女性、ベテラン農業女性、加工に取り組む農業女性等、農業に関わる女性の交流の場などができる体制を作っていただきたい。また、「日本一就農しやすい長野県」にプラスして、「日本一農業女性が輝く南信州」を目指してもらいたいと思う。 ○ 今、農業女子という言葉があちこちで聞かれるようになって、JAの女性部でも農業女性大学を開設し、農業コースを設けているが、とても評判がよく、若い女性が農業に対してすごい興味を持ってやってくれていると感じる。フレッシュミズの交流会や農業女子の集まりなどを通じた、様々な皆さんとの交流の場は大切であると感じている。 ○ 農地を守っていく上で、農家だけではなかなかできない部分があり、「農ある暮らし」という言葉もあるが、リニア時代を迎えようとしている中、都市の皆さんがこの地域で農に少し触れるような生活も考えられるのではないかと。最初は2地域居住や週末の農業というような形で入り、次は移住という方へ進んでいく、そういったものも考えたい。そのためには農地をどう確保するか、機械や農機具をどうするか、あるいは新規就農者にどう指導するか、そういったもののシステムを作らなければならないと思う。 ○ また、農業以外を主として来るとすれば雇用の問題もある。農業だけに限らず、他の産業・企業などとどう連携して呼び込むかというところを考えると、県農政部を越えた課題だと思いが、よろしくお願ひしたい。 ○ 中山間地域は特に農業を核としてコミュニティができていると思っているので、中山間地域の支援として、これからも元気な農業について、しっかり一緒になって取り組んでいただくことをお願ひしたい。 ○ 地域で桃狩り観光に取り組んでいるが、けっこう人気がある。県の計画の中で観光農業の項目が少ない気がしており、具体的な方策が弱いかなと思うので、ぜひ項目を追加していただけるとありがたい。 ○ 銀座NAGANOの「信州直売所の味 夜なべ塾」に講師として出向いたところ、参加してくれたお母さん達は、「田舎には行ってみたい」、「田舎に親戚がいるような暮らしがしたい」ということを言っていた。田舎の良さをもっと分かるような情報発信と、田舎へ来て1日でもいいから農業体験ができるツアーなどがあれば良いと思う。
<p>地産地消と食に対する理解・活動の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地産地消で、村の子供たちに給食で食べてもらいたいという思いから、栄養士さんの所へ足を運び、それが村内の給食での利用に結びつき、その後、調理員の皆さんの繋がりから、飯田・下伊那地域の学校給食の食材として提供することができるようになった。しかし、野菜などは農家から集めると規格が異なり、あまり好まれないという傾向があり、調理員さんの理解が無いと受け入れられず、意識改革の必要性を感じている。

施策の展開方向	意見・提言
	<p>○ 体験型農業や観光農園的な農業は個々バラバラで取り組んでいるため、地域での一体的な方向付けが必要。モデル園的なものを作り、都会あるいは非農家の皆さんが遊びながら、農業というものはこういうものだ、生産されるものは手間・暇が掛かって、これだけ新鮮・安全だなど、安ければいい外国産では良くない等といった意識づけ、教育が必要ではないか。将来的に食糧危機が来た時に、果たして今のままの食生活でいけるかどうか、命を育む元になる食と農とは共生なのだと、国、あるいは個人にとって大事なものだということを、もう少し一体的にPRしていくことが必要ではないか。</p> <p>○ スーパーへ行くと地産地消コーナーがあつて、いろいろ季節のものが出てはいるが、味はいいのだろうが見た目が悪いとか、価格も一般コーナーと変わらない、食べてみても差が分からないという話が出てはいる。また、そういうものをどのように選別するのも分からないし、どこまでが地産なのかも私たちには分かっていない。</p>
美しい農村の維持・活用	<p>○ 水利作業など地域で取り組んでいる多面的機能支払は成果が出ており良いことと思うが、担い手が減少していく中、今後も個人の農地が徐々に荒れていくことが想定され、将来も多面的機能支払がうまく機能していくのだろうか。耕作できなくなってきた農地をどう荒らさないようにするか、誰かに託すのか、地域にお願いするのか、そういうことが負担なくできる仕組み・制度のさらなる検討も必要であると感じた。</p> <p>○ 山沿い地域では鹿の被害を受けており、現在、猟友会との交流会を通じて対策を進めている。また、遊休農地も農業委員や農協の方から私たちまで一緒になって大豆栽培等に取り組んでおり、農業は自分だけではなく、地域やそれぞれの役の方が一緒になって取り組まないと進まないと感じている。</p> <p>○ 鳥獣（猿）の被害がひどかったが、町により侵入防止柵が設置されてから普通の状態に戻った。これにより個人や少数の団体での取組より、地域全体として取り組むことの大切さを痛感した。農業への意欲を鳥獣によって損なわれることは非常に残念であるため、今後も鳥獣害で農業をやめることが無いように全力で取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 自然エネルギーの活用ということで、高齢化や後継者がいない遊休農地等に太陽光パネルを設置するということは結構だと思うものの、パネル設置により、優良な農地、景観なり周囲への影響も懸念される。例えばパネルが高温になるとか、光の害があるとか言われるが、科学的な根拠が出ておらず、年数を要するかもしれないが、県等関係機関でぜひデータを収集してもらいたい。</p>

木曾地区部会

施策の展開方向	意見・提言
夢ある農業を实践する 経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 集落営農は構成員が元気なうちはいいが、元気がなくなると一気にだめになってしまう。安心して農業をやっていくためにも事務処理等を第3者機関が行うことなどを検討してもらいたい。 ○ 遊休農地が多いので、自分たちで酒米づくりをと考えたこともある。農業入門講座等に、もっと情報があれば企業としても参加できるかなと思う。また、技術指導専任の方などいれば、より参入しやすい条件になると思う。
自信と誇りを持てる 信州農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基幹品目の生産実績が目標値を大きく下回っている。基準年（H22）から増加するという計画数字と大きく乖離しており、絵に描いた餅的な数字では、現実的にはやる気も失せる。現実在即して毎年見直しをすることが良いと思う。
農村コミュニティの 維持・構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農家ではないけれど農業をやりたい人がいる。こうした農業経験のない人を、何らかの形で登録して、その後丁寧な声掛けをするなどして、農業に携わる人を増やしていけるように、先進的事例を紹介してほしい。
美しい農村の維持・ 活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地形を活かした自然エネルギーの活用について、有害鳥獣用の電気柵等に使えるような体制を作れないものか。

松本地区部会

施策の展開方向	意見・提言
<p>夢ある農業を実践する 経営体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 40歳未満の新規就農者の確保と手厚い支援を引き続きお願いしたい。 ○ 農業女子は、決断力・判断力が早い、農業が魅力的に思えるような農業施策をお願いしたい。 ○ 65歳以上で農業をやめる人が多い。やめた後の穴を埋める就農者がいるのか心配である、就農者の確保をお願いしたい。 ○ 農家の若者は、農業をやることに否定的で、都会の就農希望者は信州がすばらしいと考えている。東京の人たちにもっとPRをしていただきたい。 ○ 土地利用型農業への農地集積を行政が進めることにより、新規就農者（花き）の農地が確保しにくくなっている。新規就農者は余った農地で農業を始めることなく、条件が整った所でやれるようにして欲しい。 ○ 今年度新規就農者の募集を行ったがなかなか良い人が集まらない。新規就農希望者へのPRをお願いしたい。 ○ 地域おこし協力隊から農業を始める若者がいる。バックアップをお願いしたい。
<p>自信と誇りを持てる 信州農畜産物の生産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 麦の安定的生産のために、「ゆめきらり」に替わる縞萎縮病に対応した新品種の早期育成をお願いしたい。 ○ 地球温暖化の影響で、今後農作物を栽培するのにどう対応したらよいか色々な方法を教えていただきたい。 ○ ワインバレー構想に合わせて、塩尻市では大手ワインメーカーの進出が著しい。よいことであるが、反面、野菜産地として担い手が減少しているため、野菜の担い手確保もお願いしたい。 ○ 地域を農業で活性化させることが大事である。水稻は「風さやか」を進めている。大麦「東山皮糯109号」は、需要があるので期待している。小麦も早く新しい品種の育成を県にお願いしたい。
<p>信州ブランドの確立と マーケットの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 輸出については、JA単協で取り組むのはむずかしい（コスト・手間・手続き）ので、国・県レベルでの取組と、ルート開拓をお願いしたい。 ○ JAの6次産業化は遅れている。12月に管内にある商品を集めて見本市を開催し、販路拡大やアイデアを出し合うので、御協力をお願いしたい。 ○ 花で20万本弱の輸出に取り組んでいる。ゆっくり花をつくる。化学的に捉えて、他に負けないものを作る必要がある。

施策の展開方向	意見・提言
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国土交通省の取水量改定時期で、希望どおり期間延長ができた。本来なら貰える水量が農業の変化を数字で説明しないと貰えない時代になった。水の大切さを市民とともに訴えて水の確保を図って行くので御協力をお願いしたい。 ○ 中山間地域では、T P Pで中山間地域対策として小規模整備など、きめ細やかな対策が必要である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 糶殻処理に困っている。対策を考えていく必要がある。

北安曇地区部会

施策の展開方向	意見・提言
夢ある農業を实践する経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新規就農希望者の中には有機農業で所得を上げたい等の希望が強く支援体制が求められる。 ○ 水田農業では機械のオペレーターに関して後継者の確保に課題がある。今後担い手となる40代と50代は、すぐには大型機械を乗りこなせない現状にあり、対応が求められる。 ○ 水稲+αのシミュレーションソフトを活用して地域の担い手となる中核的な農業者の確保と集落営農組織の農業担い手を確保する必要があるが、所得の上がる作物の組み合わせに検討が必要である。 ○ 地域おこし協力隊員の中には、特に園芸農業での生計を考えている若者が多い。若者が望む新たな農業スタイルでの支援体制整備が求められている。(所得重視よりはライフスタイルを重視した農業経営の実現への支援)
自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○ より一層の稲作のコスト低減が必要である。そのためには、赤米対策とカラス対策をしながら直播の推進を図る必要がある。技術のブラッシュアップが必要である。
信州ブランドの確立とマーケットの創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 酒米の生産を伸ばして日本酒の輸出拡大を目指す。 ○ 食味値80%以上の特別栽培米のブランド化の推進を図る必要がある。 ○ いつの時期にどこでどのような農産物が生産されているのかといった情報の共有を図ることが重要である。 ○ 市町村を超えた広域でのワイン特区取得を進める必要がある。
農村コミュニティの維持・構築	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光との連携を図ることができる農家民宿の取組は、民泊需要が多くて受入が十分にできない状況にあり、管内の広い範囲での取組が必要である。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地元の農産物を地元で利用できるようなシステムの構築が必要である。 ○ 観光地である長野県は、地域外出荷と地域内消費に分けた農産物生産と加工食品開発を進める必要がある。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有害鳥獣は、個体数の調整とともに、行政が主体となったより広域な取組を進める必要がある。 ○ 観光地として生き残るためには、農業生産を維持することによる景観(田園風景・農村風景)を守る取り組みが重要である。 ○ 景観面の維持では、ソーラーパネルの設置が多くなり、最低限農村の景観を維持するためには、規制等かける等の対策の検討が必要である。

長野地区部会

施策の展開方向	意見・提言
<p>夢ある農業を実践する 経営体の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農して最初の3年が一番苦しかったが、その時に農業改良普及センターに支えてもらい、非常に感謝している。行政として県と市がうまく連携して若い百姓を育ててくれている。引き続き支援をお願いしたい。 ○ 新規就農者が増えてきて将来が明るくなった。是非、県にはそのような方を大事に育てていただきたい。 ○ 園地を借りたくても足りないことと作業所が足りないことが問題なので是非お力添えをいただきたい。 ○ 須高地域では新規就農者が増えてきている。須高農業振興会議において普及センターや3市町村で担い手確保対応。作業小屋の確保が一番大きな要望で、昨年からは使っていない保育園を利用させていただいている。 ○ 認定農業者は増えてきているが高齢化が進んでいる。アンケート調査を行ったところ、10年後に離農するとした回答が40%もあった。農業離れがどうなっていくか心配。
<p>自信と誇りを持てる信 州農畜産物の生産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 畜産農家の現状を見ると鶏・豚・酪農でも堆肥まで売っているところは黒字で経営が良い。 ○ 大きく農業人口が減少する中で、新たに就農される方や現在取り組まれている方の技術支援、または栽培に関して支援いただく施策、方策について大変ありがたいと感じている。 ○ 高齢化が進んでいるので、長野県においても夏秋野菜や主要野菜も含めマッチングする農産物を作り出し、その中でも軽量で高単価になるものが農業者の力になる ○ 水稲中心の地域はTPP大筋合意で厳しい状況にある。今後、魅力ある農業、所得向上につながる農業にしていく必要がある。
<p>信州ブランドの確立と マーケットの創出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「風さやか」の知名度が上がってきた。知名度は大事だと思うので、果物や米等強力なPRをお願いしたい。 ○ 一般消費者に対し、価値の提案型という商売をしていかないと生き残れない。安心安全な農産物を取り扱うことは当たり前で、その上につくキーワードが「健康」。GAPの取組は消費者への販売の付加価値になっていくと思う。 ○ 農産加工所の従業員が高齢化。人手不足が深刻なので支援していただけることがあったら考えていただきたい。

	○ 銀座NAGANOでイベント実施したが、販売先の裾野をもっと広げていくことに支援をいただきたい。
農村コミュニティの維持・構築	○ 中山間地域に適した作物が見つからないことが大きな課題。先進自治体の事例を参考にしたり県の皆さんにご指導いただきたい。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	○ 遠隔地への輸送の問題が大きい。地元のを地元で消費するニーズがあるので、遊休農地、耕作放棄地を活用し農業者の所得向上につなげる。

北信地区部会

施策の展開方向	意見・提言
夢ある農業を实践する経営体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ○ 果樹栽培について、担い手の高齢化、国内マーケットの縮小等先が見えない状況である。地域として里親制度等に取り組むこととしているが、十分な成果があがらない。 ○ 果樹は、農地中間管理機構が使いにくい。産地の継承が水田と違い難しいこと踏まえて仕組みづくりをお願いしたい。
自信と誇りを持てる信州農畜産物の生産	<ul style="list-style-type: none"> ○ きのご経営体の経営安定対策として、野菜等の導入は、ブナシメジなど、栽培期間の長い品目では不向きではないか。 ○ 信州の環境にやさしい農産物表示認証制度、原産地呼称管理認定米の知名度が低い。申請者がメリットを感じるような制度設計をお願いしたい。 ○ 北信地域は、全国コンクールで上位入賞を多数入賞する米の産地である。平成30年度から米政策が大きく改正されることから、県として、施策の方向性をしっかりと見出す必要がある。 ○ 信州農産物の需要が高く、特に、夏秋野菜の需要が高い。積極的な生産振興をお願いしたい。
信州ブランドの確立とマーケットの創出	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国は、大規模生産を中心に支援しているが、大量生産は価格の下落につながる。具体的には県産農産物のブランド化や6次産業化など、単価の向上が期待できる施策を展開されたい。
地産地消と食に対する理解・活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現在、旅館業で県産農産物の活用やおやきなど伝統食の活用を心掛けている。女将の仲間には、県産農産物を十分に知らない者もあり、連携や情報共有は極めて重要と考える。
美しい農村の維持・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多面的機能支払制度については、共同活動と長寿命化を分けなくて一緒にしていただきたい。